

細胞使った目の治療薬

2015
08
23
(Sun)

ヤンセンファーマ 日本で治験へ

米製薬大手の日本法人、ヤンセンファーマはヒトの細胞を使った細胞医薬の日本での臨床試験

(治験)を開始する。臍帯血(さいたいけつ)を活用した新薬で、米国では2010年から治験を始めています。日本でも再生医療の実用化を後押しする法律が整備されたことを受け、製品化を目指

していく。

治験の開始に向け行政当局との協議を始めた。

新薬は目の難病である加齢黄斑変性の治療に使う。加齢などが原因で網膜の中心部に障害が生じ、視野の一部が見えにくくなる病気で日本でも

成人が失明する大きな原因の一つになっており、効果が高い新薬へのニーズが強い。

同社が開発する細胞医薬は加齢黄斑変性に伴う萎縮などの病状を治すという。